

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2023 月 9 月」

2023 年

- 9 月 1 日 東京電力が、8 月 31 日に福島第一原発汚染処理水放出口付近で採取した海水から、放射性物質トリチウムが 1 リットル当たり 10 ベクレル検出されたと発表した。24 日の放出開始後、検出は初めて。
- 9 月 1 日 佐賀県は、玄海原発にかける核燃料税を来年 4 月からの 5 年度分は税率を引き上げることで合意したと発表した。2020 年度に導入した原子力災害時に活用が想定される消防防災ヘリの運営費など、安全対策にかかわる経費が増えたことが要因としている。
- 9 月 2 日 福島第一原発事故後、脱原発を完了させたドイツの公共ラジオでショルツ首相が、「ドイツにおいて、核エネルギーの問題は終わった話だ」と語った。ドイツでは今年 4 月、最後の原発 3 基が送電線から切り離され、60 年以上に及ぶ原発の歴史が終わった。
- 9 月 2 日 福島第一原発の汚染処理水の海洋放出の件で、西村康稔経済産業大臣が、岩手県宮古市で、「風評やフェイク(ニュース)に負けないという強い決意で水産をしっかりと応援していきたい」と語った。
- 9 月 4 日 福島第一原発の汚染処理水海洋放出について、経済産業省が設けた 300 億円の基金を管理する水産物安定供給推進機構が、1 例目の支援先を決定したと発表した。水産物価格が一定程度下落するなど「風評被害」が確認されたという。取引に影響を与えるとして支援対象の団体名や金額、魚種は非公表。
- 9 月 4 日 福島第一原発の汚染処理水を巡り、内堀雅雄知事は海洋放出が始まってから初めて現地を視察した。
- 9 月 5 日 13 時 27 分ごろ、千葉県北西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.5 と推定。茨城県つくば市、神奈川県横浜神奈川で震度 3。
- 9 月 5 日 東海第二原発事故が起き放射性物質が放出された場合の拡散シミュレーションについて、茨城県は原電に再試算を依頼することを決めた。
- 9 月 5 日 原子力規制委員会が、川内原発 1、2 号機の 40 年超運転を審査する会合を開き、技術的な議論をおおむね終えた。九電、規制委とも今後は、延長の可否を最終判断する委員会認可に向けた書類を作成。年内にも運転延長が認められる可能性がある。

- 9月6日 相次ぐ資料の不備で、異例の審査中断が続いている敦賀原発2号機について、原子力規制委員会は事業者の日本原子力発電から改めて提出された申請書に明らかな不備は認められなかったとして審査を再開することを決めた。
- 9月7日 東京電力が、福島第一原発の3キロ圏で8月30日に採取した海水の放射性物質トリチウムを、6カ所で1リットル当たり1~1.5ベクレルを検出したと発表した。
- 9月7日 東京電力が、福島第一原発の汚染処理水の海洋放出について、1回目の放出を11日に終え、2回目の準備は早ければ9月末以降に始める見通しを示した。
- 9月7日 台湾の中央通訊社は、福島第一原発の汚染処理水海洋放出について、対日本窓口機関である台湾日本関係協会が「モニタリングで基準値を超えた場合は直ちに放出を停止する」よう日本側に提案したことを報じた。日本側は基本的に前向きであるものの、省庁間の調整が必要な問題であるため関係省庁調整の上、結果を台湾に通知すると回答した。
- 9月8日 午前4時55分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月8日 午前6時06分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.3と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月8日 午前8時07分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月8日 午前11時15分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月8日 13時15分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月8日 福島第一原発の汚染処理水海洋放出を巡り、衆参両院で連合審査会を開いた。出席した全国漁業協同組合連合会の坂本雅信会長は、中国の日本産水産物の全面輸入停止について「政府が責任を持って対処し、われわれの不安に応えてほしい」と求めた。岸田文雄首相が審議に出席していない。
- 9月8日 福島第一原発の汚染処理水海洋放出の差し止めを求め、福島や東京など1都5県の住民ら151人が、国と東電を福島地裁に提訴した。原告側弁護団によると、海洋放出の差し止めを求める訴訟は全国初。10月末に追加提訴を予定している。
- 9月8日 18時19分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月8日 18時28分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.5と推定。岩手県花巻市、一関市、宮城県気仙沼市で震度4、青森県八戸市、階上町、岩手県盛岡市、宮古市、大船渡市、北上市、遠野市、陸前高田市、釜石市、奥州市、滝沢市、矢巾町、平泉町、住田町、大槌町、山田町、普代村、一戸町、宮城県石巻市、登米市、栗原市、大崎市、涌谷町、南三陸町で震度3。

9月8日 23時12分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 現地時間午後11時11分(日本時間9日朝)ごろ、北アフリカ・モロッコ中部でマグニチュード6.8の地震が発生した。第一報では死者が632人、負傷者が329人。さらに増える可能性がある。国営テレビは9日、内務省の話として死者が1037人になったと報じた。

9月9日 午前0時24分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前2時28分ごろ、奄美大島北西沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.0と推定。鹿児島県十島村で震度4。

9月9日 午前3時08分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.0と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前4時32分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.9と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前4時38分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.8と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前4時45分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.4と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前9時27分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.1と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前11時03分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 午前11時40分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 12時03分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。鹿児島県十島村で震度3。

9月9日 13時46分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.7と推定。鹿児島県十島村で震度3。

- 9月9日 16時07分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月9日 18時28分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月10日 14時28分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月11日 午前0時02分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.3と推定。鹿児島県十島村で震度4。
- 9月11日 政府が先月24日に開始した福島第一原発汚染処理水の放出をめぐり、国際原子力機関は、放出後初めて実施した福島第一原発周辺での海水の水質分析の結果、トリチウムの濃度が運用の基準値を下回ったと発表した。
- 9月11日 東京電力が、福島第一原発の汚染処理水、1回目に計画した約7800トンの海洋放出を終えたと発表した。設備のトラブルはなく、放出された処理水に含まれる放射性物質トリチウムの濃度に異常はなかった。2回目の放出開始は設備の点検後の9月末にも予定している。
- 9月11日 九州電力が、玄海原発1、2号機の廃炉に関し、原子力規制委員会に申請していた廃止措置計画変更が認可されたと発表した。使用済み核燃料プールの冷却機能を停止し、廃液蒸発装置を2号機に集約する内容で、九電は佐賀県と玄海町の事前了解を得た後に実施する。
- 9月11日 核燃料が溶け落ちるメルトダウンを起こした福島第一原発1号機で「ペDESTAL」と呼ばれる原子炉を支える鉄筋コンクリート製の円筒形の土台がほぼ全周にわたって壊れ、鉄筋がむき出しになっている状況について、東京電力は、最大規模の地震を想定しても原子炉は支えられ、転倒することもないとする評価を原子力規制庁に報告した。
- 9月12日 午前1時46分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月12日 政府が、60年を超えて原発を運転できるようにする改正電気事業法を2025年6月6日に施行すると閣議決定した。改正法は、原子力規制委員会の審査などで原発が停止した期間を運転期間に含めないことで、これまでの最長60年から延ばす。
- 9月12日 長崎県対馬市議会が、高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定の前提となる文献調査の受け入れを求める請願を採択した。議場や傍聴席からは「審議をやり直せ」「決まったことだ」などと怒号が飛び交い、一時中断する場面もあった。

- 9月12日 北海道の鈴木直道知事が、原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に向けた文献調査を道内の寿都町、神恵内村が受け入れていることについて「文献調査が終了し、仮に概要調査に移行する場合には反対の意見を述べる考えだ」と改めて慎重な姿勢を強調した。
- 9月13日 「核のごみ」の処分地選定について第1段階にあたる「文献調査」の受け入れの促進を求める請願が採択された対馬市議会で、比田勝尚喜市長は「推進する立場、反対する立場双方の意見を参考にさせていただきながら、判断を行いたい」と述べた。
- 9月14日 中国電力などが上関町で計画する使用済み核燃料を一時保管する中間貯蔵施設建設を巡り、同町議会は茨城県東海村にある貯蔵施設の視察研修費を含む約1億6500万円の補正予算案を賛成6、反対3(議長を除く)の賛成多数で可決し、閉会した。
- 9月15日 関西電力が、高浜原発2号機の原子炉を起動し、2011年11月に定期検査入りして以来、約12年ぶりに稼働させた。
- 9月15日 宮崎県木城町の半渡英俊町長が、町議会常任委員会が視察していた原発から出る高レベル放射性廃棄物最終処分の関連施設に絡み「(最終処分場選定の)文献調査を受け入れる考えはない」と明言した。
- 9月15日 島根原発1号機の廃炉作業の完了時期が当初計画より4年遅れることについて、中国電力は8月末から今月にかけて、原発から30キロ圏内にある山陰両県の6市7会場で住民説明会を開いた。最終日の14日は島根県安来市であり、住民ら24人が参加した。
- 9月15日 超党派の日韓議員連盟が、韓国の韓日議員連盟と合同総会を開き、東京電力・福島第一原発の処理水の海洋放出をめぐる、不安解消のため、厳格な管理を両政府に要請することなどを盛り込んだ共同声明を採択しました。
- 9月16日 午前4時36分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。福島県広野町、楡葉町、富岡町、大熊町で震度3。
- 9月17日 新潟県が公表した福島第一原発事故に関する県独自の「三つの検証」の総括報告書について、名古屋大名誉教授で検証総括委員会の池内了・前委員長が、会見で「報告書はおおざっぱで簡略化されている。事務的な作業で何が重要か区別がついていない。簡略版を示すのでは総括書にはならずチャットGPTでもできる内容だ」と改めて批判した。
- 9月18日 福島第一原発では、処理水の海洋放出の初回終了後。早ければ月末にも予定する2回目の放出に向けて設備の点検に入った。

- 9月18日 中国税関総署が発表した貿易統計によると、中国が8月に日本から輸入した水産物の総額は前年同月比67・6%減の1億4902万元(約30億円)だった。7月は28・5%減だった。
- 9月18日 福島第一原発の汚染処理水放出について駐日中国大使館が報道官のコメントを掲載し、「日本が汚染水の処理に本当に自信があるのなら、責任ある態度を示すべき」と批判し、放出の監視に中国も参加できるよう求めた。
- 9月18日 22時21分ごろ、宮古島北西沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは6.4と推定。沖縄県糸満市、うるま市、宮古島市、南城市、国頭村、今帰仁村、西原町、座間味村、渡名喜村、八重瀬町で震度3。
- 9月19日 午前4時33分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.5と推定。岩手県一関市、宮城県石巻市、登米市、東松島市、松島町、涌谷町、宮城美里町、福島県田村市で震度4、岩手県、宮城県、福島県の広域で震度3。
- 9月19日 13時35分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。鹿児島県十島村で震度3。
- 9月19日 中国電力の中川賢剛社長が、上関町に建設を検討する使用済み核燃料の中間貯蔵施設について「誰も100%安全とは言えない」としつつ、「最終処分場には絶対なりえない」と造ることに理解を求めた。
- 9月20日 福島県が、葛尾村の特定復興再生拠点区域の畑で収穫された殻付きのそばの実から、国の放射性セシウムの基準値(1キロ当たり100ベクレル)を超える同430ベクレルが検出されたと発表した。
- 9月20日 福島第一原発にたまる汚染処理水の海洋放出を巡り、北海道函館市議会が、「岸田文雄首相は漁業者らの反対の声を無視して実施した」として、直ちに中止するよう求める意見書を賛成多数で可決した。
- 9月22日 環境省が、福島第一原発事故帰還困難区域内の解体工事現場で、下請け会社の作業員が鉄くずなどを無断で持ち出し、売却していた問題で、他にも起きていないか調査する方針を示した。
- 9月22日 国連総会でソロモン諸島のソガバレ首相が、「ソロモン諸島は日本の放出の決定に愕然としている。原発の廃水が安全なら日本で保管されるべきだ、海に投棄されること自体安全でないことを示している」と述べた。
- 9月22日 原子力規制委員会は、敦賀原発2号機再稼働に向けた審査で資料の誤りが続発し、審査が中断していた審査会合を半年ぶりに開いた。

- 9月22日 中国電力が、島根原発2号機用の新核燃料を搬入した。来年に予定する再稼働に向けた準備のため、新核燃料の搬入は2011年7月以来、12年2カ月ぶりとなる。
- 9月23日 関西電力が、高浜原発2号機の熱出力を100%に保つフル稼働の状態になったと発表した。最終の検査を経て、10月16日に調整運転から営業運転に入る見込み。高浜2号機は47年が経過し、7月に再稼働した高浜1号機の48年に次いで古い。
- 9月25日 国際原子力機関総会で、高市早苗科学技術担当相が、福島第一原発の汚染処理水について、8月に「安全性に万全を期した上で」放出を開始したと説明。「IAEAの継続的な関与の下、最後の一滴の海洋放出が終わるまで安全性を確保し続ける」と訴えた。それに先立ち、中国は演説で「福島核汚染水の海洋放出は原子力の安全性を巡る大きな問題だ」と主張した。
- 9月26日 午前8時39分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。宮城県気仙沼市、名取市、岩沼市、登米市、大崎市、亘理町、宮城美里町、福島県相馬市、楡葉町、新地町で震度3。
- 9月26日 茨城県東海村議会原子力問題調査特別委員会が、東海第二原発の再稼働を求める村環境整備事業協会の請願の採決を行い、賛成多数で採択した。
- 9月26日 23時13分ごろ、大阪府北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。大阪府能勢町で震度3。
- 9月27日 午前7時21分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。宮城県石巻市、角田市、岩沼市、宮城川崎町、亘理町、山元町、福島県福島市、相馬市、二本松市、南相馬市、福島伊達市、国見町、川俣町、川内村、浪江町、新地町、飯舘村で震度3。
- 9月27日 原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に向けた文献調査を巡り、対馬市議会で受け入れ拒否を表明した比田勝尚喜市長が記者会見し、「市民の安心安全に不安があった」と理由を語った。
- 9月27日 九州電力が、玄海原発3号機で使用するMOX燃料の製造再開に向け、工事計画認可に関する補正書を原子力規制委員会に提出した。
- 9月28日 東北電力が、女川原発2号機の再稼働時期を2024年2月から同年5月ごろに延期すると発表した。再稼働の前提となる安全対策工事の完了時期を23年11月から24年2月に見直したことが原因。工事完了時期の延期は6回目。

- 9月28日 東京電力が、福島第一原発2号機の溶融核燃料取り出し用に開発したロボットアームが使えない恐れが出たため、より簡易な伸縮式パイプの使用も検討していると発表した。
- 9月28日 23時29分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。石川県珠洲市で震度3。
- 9月29日 16時58分ごろ、福島県中通りを震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。福島県いわき市、白河市、二本松市、田村市、泉崎村、矢祭町、玉川村、浅川町、古殿町、小野町、広野町、楢葉町、大熊町、浪江町、茨城県水戸市、日立市、笠間市、ひたちなか市、大子町で震度3。
- 9月29日 日本原子力研究開発機構が、高レベル放射性廃棄物の地層処分を研究している北海道幌延町にある幌延深地層研究センターにある立て坑を深度約500メートルまで延ばすための掘削工事を開始した。